

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	2 6 8 4 4 1 1
園名	府中白百合第二幼稚園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

英語あそび

<テーマの設定理由>

外国人講師と日本人講師による「英語遊び」の時間の設定により、生活の中での出来事を簡単な英語で表現したり、子ども達同士での簡単な英語での挨拶や声を掛け合う姿などが見られるようになった。子ども達の英語に対する興味や外国の文化についての関心を更に深め、探求していくため「英語あそび」をテーマとして設定した。日々の保育や子ども達の生活の中に子ども達が自主的に英語を使つての遊びやコミュニケーションを楽しみ、生活の中に自然に英語が取り込まれていくような活動の機会にし、子どもの英語に対する探究心を育んでいきたい。

### 2. 活動スケジュール

○通年・・・始まりの歌、終わりの歌（ジェスチャーを交えて）

名前「What's your name?」「My name is～」

年齢「How old are you?」「I'm～」

数・フォニックス

○年間の主なトピック

1 学期・・・Numbers(数)、Fruit(果物)、Vegetables(野菜)、Colors(色)、Clothes (服)  
Shapes (形)

2 学期・・・Toy&Things (おもちゃと物)、Animals (動物)、Hygiene(衛生)

3 学期・・・Transportation (乗り物)、Food(食べ物)、Places (場所)、

Playground(あそび場)、Occupations(お仕事)、Breakfast(朝ごはん)

・英語講師、先生や友達とふれあい、コミュニケーションをとりながら、英語の歌やゲームを通して楽しみながら英語に親しむ。

・英語の絵本や絵カードを見ながら、外国人講師の話を聞き、異文化について知り、興味を持ち、日本との違いなど考える。

### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

#### <環境設定>

- ◎各クラスの本棚に英語の絵本を入れ、子どもが見たい時に自由に見ることができたり、本の貸し出し制度で家でも読んだりみたり出来るような環境設定にしている。
- ◎英語の歌のテープやイラストカード等を保育のちょっとした場面などで取り入れ、耳からも視覚からも英語に触れられる環境設定を心掛けた。
- ◎繰り返しのフレーズのあるような物語の絵本を選び、英語のテープと合わせて聞いたり、絵本を見ながら英語で繰り返して言ってみたり等、英語が身近に感じられるよう働きかけた。
- ◎自由遊びの時間に、英語の絵カードを使って、トランプの神経衰弱のように遊びながら英語に触れ、楽しめるようなゲームの素材を用意した。

#### <活動内容・子どもの姿・教師>

- ◎朝の会の挨拶や天気など毎日繰り返す簡単な英語でのやりとりを覚え、英語での挨拶や天気をみんなで復唱できるようになってきている。担任も英語を随所で使うことによって、自然に楽しんで英語に触れる保育計画を立てる中で、子ども達の英語に対する意識も変化してきている。
- ◎英語あそびの時間も積極的に講師の質問に答えたり、簡単な英語を使って、ゲーム形式で子ども達同士コミュニケーションを取る姿が見られる。
- ◎英語以外の保育でも製作に使う折り紙の色を英語で言ってみたり、絵本や紙芝居に出てくる動物や物の名前を『○○は英語でなんていうんだろう』、『○○の行事は外国ではどうやってやるのかなあ』など英語に対する子ども達の興味や関心が広がりを見せている様子が随所に見られる。
- ◎子ども達の興味や関心事で担任も分からないことは、図鑑やタブレットのインターネットで調べたりする等、子ども達の探究心の深まりに繋がっている。



<振り返りによって得た先生の気づき>

- ◎「英語あそび」を保育内に導入してから3年目を迎えたが、1年目・2年目に比べると数段英語に対する親しみが増し、英語の時間を楽しみに待つ子ども達の様子が見られる。普段の保育の中でも担任が教えてもらった英語を使って話をしたり、英語に触れる機会を多く設ける事を心掛けたことで、英語の時間も講師に対する英語での受け答えの反応が良くなったり、日常の中で簡単な英語表現でのやりとりが子どもたちの中から聞こえてくるようになった。
- ◎クラスの中で担任が英語の簡単なフレーズを日本語に置き換えて話すことで、子どもたちがプレッシャーを感じることなく英語に親しめる環境を作ることができた。
- ◎朝の会での挨拶や天気の話など、英語で行う日を設けたことによって、単語だけではなく、会話文として覚えることが出来てきた。
- ◎ジェスチャーや身体の動きと連動して英語遊びをすることで、楽しく英語に親しむことが出来る事が分かったので、今後は英語を使って出来るゲーム等を多く取り入れていきたい。
- ◎日本で日常的に使われている英語も本来の英語では発音が異なることに気づき、違いを楽しんでいる様子が見られた。又、保育に中で出てくるフレーズや物や動物の名前などにも「じゃあ、これは英語で何て言うんだろう？」と英語に対して興味関心が膨らみ、「なぜだろう?」「どうしてだろう?」の探究心の芽生えにつながった。◎